

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600601		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホームふれあい稲田1・2		
所在地	北海道帯広市西13条南39丁目6-33 (電話) 0155-49-7150		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年9月13日	評価確定日	平成20年11月7日

【情報提供票より】(平成20年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u>	15年	9月	20日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18人	常勤	12人,	非常勤 6人, 常勤換算 11.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000	円	その他の経費(月額)	24,000~29,300	円
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食		円	昼食	円
	夕食		円	おやつ	円
	または1日当たり		700	円	

(4) 利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	17名	男性	7名	女性	10名	
要介護1	7名	要介護2		5名		
要介護3	2名	要介護4		3名		
要介護5	0名	要支援2		0名		
年齢	平均	86歳	最低	68歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北斗病院・なりた歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、帯広市郊外の学園や住宅が並ぶ緑豊かな地域で、近くには大型のショッピングモールも点在する、恵まれた立地条件に建っている。母体法人は、数多くのグループホームやシニアホーム、ホテルなどを経営しており、しっかりとしたノウハウや援助体制が整備されている。平成15年秋の開設で、6年目を迎えているが、利用者の目立った重篤化もなく、また、職員の異動も少なく、安定のある充実した介護に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であった研修体制の強化や他事業所との交流について、意識的に取り組んでいる。具体的には、研修内容報告の徹底化などであり、改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の一人ひとりが自己評価に取り組み、その個々の意見や考えを全体で論議を深めて、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域・町内会役員や家族代表、地域包括支援センター職員の参加で開催している。会議の内容が、事業所の一方的な事業報告や案内にならないような工夫をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は、話しやすい雰囲気づくりが最優先との認識で、取り組んでいる。具体的に、たよりの発行や日常の電話報告、事業所訪問時の聞き取りをし、意見や苦情への早期対応を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域町内会には定期的なたよりを回覧したり、事業所の夏祭りへの参加を呼びかけるなど、地域交流への働きかけを行っている。今後も、防災活動や事業所の行事を積極的に活用し、地域とのより一層の促進を期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人独自の運営指針を、事務所の見えやすいところに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、スタッフ会議などを通じて、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所のたよりを、家族や地域町内会に向けて定期的に発信し、理解を得る努力をしている。事業所の祭りへも、地域住民に参加の呼びかけを続けている。	○	今後は、町内会以外にも、地域にある社会資源を活用し、より深く親密な地域づくりに取り組むことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を反芻し、外部評価を素直に受け入れて、実践現場に活かすよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、単に事業所からの経過報告や行事予定の発表にとどまらないような、工夫や試みを行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いつも相談できる関係づくりを根底に、必要に応じて市町村と相談しながら、サービス向上に心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な「おたより」の発行と、電話報告などの個人的な対応で、連絡を密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見の相談窓口を重要事項説明書に掲載するとともに、敏速な対応ができる体制にある。また、家族へのアンケート等により、一層の意見集約への努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や採用の決定は母体法人によるが、異動が生じた場合は、十分な引継ぎ期間の設定などで、最小限のダメージですむよう工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が他の事業所に研修に赴き、幅広くケアを学ぶという、職員交流によるケアトレーニングに取り組んでいる。介護職員の質の向上維持に有効性がある取り組みに努めるなど、職員の育成に積極的な姿勢で臨んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	帯広地区の事業所連絡会に加入し、定期的に交流や研修に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とも相談の上、職員は、利用者が徐々に打ち解けるような雰囲気づくりに気を配り、工夫に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のリズムを中心に考慮し、さりげない介助を心がけて、共に支えあう関係づくりに努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の尊重を基本として、できる限り利用者の希望に沿えるように努力している。困難な場合は、家族と相談しながら、本人本位となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議などで目標を立て、職員全員で検討している。また、家族の意見も十分に採り入れて、その人らしい介護計画を作成し、関係者全員で共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは、3ヶ月毎に見直しているとともに、必要に応じて、担当者やプラン作成者、スタッフ等でその都度検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人の希望や家族の意向を尊重し、できる限り事業所として対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外への受診も、職員の配置や家族の協力により、利用者の希望に沿って対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重篤化に関する契約書を用意するとともに、終末期対応も職員で話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の場面をはじめとして、プライバシーには注意をしている。個人記録等は事務室の奥に保管し、記入時も個人名は頭文字のみの使用にするなど配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や畑仕事など、できる限り利用者のペースを大切にするように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の能力に対応しながら、食事の工夫に取り組んでいる。調理や配膳、片付けも、利用者が、その人らしく無理のない範囲でできるように考慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきに設定しているが、利用者本人の希望や状態に合わせて、柔軟に対応しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴から、生活スタイルや趣味を把握し、その人らしい日常生活を援助する取り組みを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定例化した散歩をはじめ、突発的な外出要望にもできる限り対応するなど、利用者の希望に沿った援助をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。鍵をかけないケアの意義を、職員全員でよく理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、町内会と合同で防災訓練を実施し、不慮の事態に地域で対処できるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて個人別に記録し、対応している。必要に応じて、栄養補助剤の利用などの支援援助をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間である居間や廊下などは、明るく開放的であり、テレビの音や直接の陽光にも気配りをしており、落ち着いた場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に、どの家財が必要なのか、本人・家族の希望に沿って決めている。		

※  は、重点項目。